

プラント状況確認結果(平成25年4月2日～4月9日)

平成25年 4月 9日
福島県原子力安全対策課

○ 平成25年4月2日～4月9日12時までの期間に、東京電力から福島第一原子力発電所1～4号機のプラント状況に関する報告内容について、県が確認した結果は次のとおりです。

⇒ この期間において、不具合等の連絡(特記事項参照)を4件受けました。

4月5日に発生した電源関係の動力盤故障警報により、3号機使用済燃料プール冷却系が停止しました。

また、4月5日に地下貯水槽からの汚染水が漏えいしました。

これらの詳細に関しましては下記【特記事項】をご参照ください

(1) プラント状況(4月9日午前5時)

場所	目的	監視項目	1号機	2号機	3号機	4号機 ^{※2}
原子炉 ^{※1} (核燃料)	冷却	注水量 (m ³ /h)	4.3	5.4	5.3	—
		圧力容器 下部温度(°C)	20.6	34.3	32.9	—
	未臨界確認	キセノン135濃度 ^{※3} (Bq/cm ³)(A系)	1.53×10 ⁻³	検出限界未満	検出限界未満	—
圧力容器	水素爆発防止	窒素充填	充填中	充填中	充填中	—
格納容器		水素濃度 (A系)(体積%)	0.11	0.09	0.16	—
使用済燃料 プール	冷却	水温(°C)	17.0	17.3	15.1	23

※1 直近データのみ記載。詳細は[東京電力のページ](#)を御覧ください。

※2 4号機は原子炉に燃料が入っていないため空欄。

※3 保安規定に定める制限値は、1 Bq/cm³以下である。

(2) 発電所敷地境界におけるモニタリングポストの測定結果(4月9日午前10時)

最小 2.2(MP-6)～最大 6.4(MP-3) マイクロシーベルト/時 ⇒[計測地点の地図](#)

(3) 発電所専用港内の海水中セシウム137濃度の測定結果(4月8日採取分)

最小 2.8(物揚場前)～最大 110(3号機スクリーン(シルトフェンス内側)) Bq/ℓ

(4) 発電所専用港外(沿岸)の海水中セシウム137濃度の測定結果(4月8日採取分)

5,6号機放水口北側に30m: 検出限界未満

1～4号機放水口から南側に1.3km: 検出限界未満 ※検出限界値は1.2 Bq/ℓ

(5) 発電所敷地内の大気中セシウム137濃度の測定結果(4月8日採取分)

西門: 検出限界未満 ※検出限界値は約2×10⁻⁷ Bq/cm³

(6) 1～6号機タービン建屋付近のサブドレン水中セシウム137濃度の測定結果(4月8日採取分)

最小 検出限界未満(3,4号機)～最大 0.4(2号機) Bq/cm³ ※検出限界値は0.02 Bq/cm³

【特記事項】

- ・ 4月3日 15時55分に正門に設置された連続ダストモニタにおいて放射能高の警報が発生し、構内に全面マスク着用を指示。他の連続ダストモニタの値に異常はなく、モニタリングポストの値も変動はない。このことから、連続ダストモニタを交換したところ、指示値は 1.8×10^{-5} Bq/cm³であり全面マスク着用省略基準値 2×10^{-4} Bq/cm³以下であること及び現場にて採取した空気中のダストサンプリングの分析結果にも問題がないことから連続ダストモニタの故障と判断し20時10分に全面マスク着用の規制を解除。故障の原因については調査中。
- ・ 4月5日 14時27分に発生した電源関係の動力盤故障警報に伴い、3号機使用済燃料プール冷却系が停止した。これによる漏えいはなく、電源設備の健全性確認を実施し異常がないことから17時20分に冷却を再開。[※詳細はこちら](#)
- ・ 4月5日 18時29分に正門に設置された連続ダストモニタにおいて本体機器異常の警報が発生し、構内に全面マスク着用を指示。他の連続ダストモニタの値に異常はなく、モニタリングポストの値も変動はない。その後、本体機器異常のリセット操作を実施して機器が復帰。原因は一時的にサンプリング流量が低下したためであり、放射能濃度測定には問題がないことから、19時07分に全面マスク着用の規制を解除。
- ・ 4月5日 4月3日東京電力が地下貯水槽No. 2からサンプリングした水から β 放射能が確認された。4月5日に再度検査した結果同じく β 放射能を検出したことから漏洩と判断した。漏洩した体積は120m³で全 γ 放射能が 1.8×10^8 Bq、全 β 放射能が 7.1×10^{11} Bqと推定された。この水の海への流出はない。汚染水は他の貯留槽に移送中。4月7日2時5分には貯水槽No. 3からもわずかながら漏えいが確認されたと通報があった。また4月9日17時43分には貯水槽No. 1からもわずかな漏えいの恐れがあると通報があった。

【参考事項】

- ・ 4月4日 5時23分頃、ホット試験を開始していた多核種除去設備(ALPS)が誤操作(ボタンの押し間違い)により停止した。6時33分に系統の一部を復旧し残水処理を開始し18時54分に終了。4月5日19時18分に再発防止対策が完了したことから運転を再開。
- ・ 4月5日 12時55分頃、ほう酸水注入設備タンクAにおいて、2本のヒータの内1本のケーブル及び端子台に焦げ痕を発見。その後、ヒータを切り替えて運転し、ほう酸水温度は安定。原因については調査中。

(問い合わせ 024-521-1917)